

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	(選択) 生け花		履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1、2年次後期	時間数	30		単位数 1
授業概要	花の姿の捉え方、間の取り方、枝葉の作り方と整理の仕方など活け始める前の段階から構築の方法と考え方を理解し、華道の奥深さとフラワーデザインとの異なる点を学習する。	到達目標	各様式を理解し、花を活けることができる。小原流の免許状の取得は任意である。		
担当教員	知地 正和				
実務経験と授業との関わり	小原流研究院講師として国内外で幅広く活動を行っている。よって生け花の知識、技能をどのように実務で活かしていくかを実践しながら指導することができる。				
テキスト・教材	いけばなの基本（小原流テキスト）、花材				
成績評価方法	実技試験の得点で評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	いけばな実践①	たてるかたち かたむけるかたち	
2	いけばな実践②	たてるかたち かたむけるかたち	
3	いけばな実践③	ならぶかたち まわるかたち	
4	いけばな実践④	ならぶかたち まわるかたち	
5	いけばな実践⑤	瓶花 たてる かたむける	
6	いけばな実践⑥	盛花 直立型	
7	いけばな実践⑦	盛花 傾斜型 実技試験	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考

2020年度 シラバス (授業細目表)

科目名	(選択) ボタニカルアート		履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1、2年次後期	時間数	15		単位数 0.5
授業概要	観察、スケッチから彩色までの一連の流れを通じて、ボタニカルアートを制作する。	到達目標	植物の観察力と表現力を身につけ、植物を正確に表現するテクニックを習得する。		
担当教員	神 利子				
実務経験と授業との関わり	様々な場所での講師のかたわら、自身でも展覧会を開催するなど、ボタニカルアートに関する造詣が深い。よって、技術はもちろんであるが、ボタニカルアートの楽しさも指導することができる。				
テキスト・教材	花材、画材				
成績評価方法	制作した作品で評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	トルコキキョウを描く	ボタニカルアートの説明、用具の説明 スケッチ 転写	
2	トルコキキョウを描く	彩色の方法、彩色	
3	季節の植物を描く	スケッチ、転写	
4	季節の植物を描く	彩色	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	(選択) 写真		履修区分	必修	選択	
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1、2年次後期	時間数	15		単位数	0.5
授業概要	写真撮影の際の基本的な知識をふまえ、撮影技術の基本を身につけ、目的に合った写真撮影ができるようにする。	到達目標	写真撮影の基本的な知識、技術を身につけ、自分の意図したものが伝わるような写真が撮影できるようになる。			
担当教員	非常勤講師					
実務経験と授業との関わり	カルチャースクールの講師としての経験から、写真撮影技術について基本からわかりやすく指導することができる。					
テキスト・教材	プリント、カメラ（スマホ可）					
成績評価方法	授業内の課題で評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	写真の技術と撮り方の講義	カメラのしくみ	
2	写真の技術と撮り方の講義	構図と光	
3	スマホのカメラの使い方	スマホのカメラのしくみ	
4	撮影演習	スマホのカメラで撮影する	
5	撮影演習	テーマに合わせた写真撮影	
6	撮影演習	各自で自由に被写体を設定しての写真撮影	
7	総括	これまでに撮影した写真の総括	
8	総括	これまでに撮影した写真の総括	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	(選択) CAD		履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1、2年次後期	時間数	30		単位数 1
授業概要	Auto CADの基本的な操作方法を学習する。	到達目標	Auto CADの基本的な操作方法を習得する。		
担当教員	佐藤 弘樹				
実務経験と授業との関わり	様々な場所での講師経験もある他、自身でもCADでの設計業務を請け負っている。よって、基本的な操作方法に加え、クライアントの目線に立った作図方法を指導することができる。				
テキスト・教材	プリントテキスト				
成績評価方法	授業内で作成した課題で評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	AutoCAD基本操作	基本的な操作	
2	作成・修正コマンド	基本的なコマンド習得	
3	修正・設定コマンド	基本的なコマンド習得	
4	文字記入・その他	文字記入と応用	
5	寸法記入	寸法記入と図面作成	
6	ブロック図形	ブロック図形の活用	
7	作図	課題作成	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	(選択) 野菜		履修区分	必修	○選択
受講対象	1、2年生	授業形態	○講義	○実習	演習 見学
開講時期	1、2年次後期	時間数	30		単位数 1
授業概要	冬野菜の栽培管理を通して、野菜作りの基礎的な知識、技術を学習する。	到達目標	各種冬野菜の栽培管理方法を習得する。		
担当教員	萩原 文雄				
実務経験と授業との関わり	花き生産に20年以上従事していたが、野菜生産についても知識、技術を習得している。よって、野菜生産に関しても基本的な栽培知識、技術を指導することができる。				
テキスト・教材					
成績評価方法	授業を受講してのレポートの点数で評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	圃場準備	除草、耕運、施肥、播種	
2	播種方法	播種（直播）	
3	定植方法	ポット苗の定植	
4	肥料・防除	追肥、消毒	
5	圃場管理	追肥、除草、消毒	
6	収穫、圃場管理	除草、消毒	
7	収穫、圃場管理	除草	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考 キャベツ、ハクサイ、コマツナ、ホウレンソウ、レタス、ブロッコリー、カリフラワー、ダイコン、カブ、ネギ、タマネギ等を扱う。

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	(選択) 花木盆栽		履修区分	必修	○選択
受講対象	1、2年生	授業形態	○講義	○実習	演習 見学
開講時期	1、2年次後期	時間数	30		単位数 1
授業概要	盆栽の基本的な知識と作業を学習する。	到達目標	盆栽の基礎知識を理解し、簡単な作業ができるようになる。		
担当教員	川崎 宏明				
実務経験と授業との関わり	長年にわたり様々な場所で盆栽に関する指導を行っている。よって、基本的な技術をわかりやすく指導することができる。				
テキスト・教材	自作テキスト、針金等				
成績評価方法	授業を受講してのレポートの点数で評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	盆栽の基本概念 針金掛の目的	盆栽とは 盆栽の見方 銅線、アルミ線の使い分け	
2	樹形 針金外し	樹形の色々、樹形作り	
3	枝と芽の出方 針金掛	花芽分化、剪定	
4	盆栽鉢 針金掛	鉢の形、名称、樹との調和	
5	植え替え、病害虫 針金掛	用土、殺虫、殺菌	
6	席飾り 整枝	卓、地板、下草	
7	まとめ	講評	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	(選択) アロマセラピー		履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	1、2年次後期	時間数	15		単位数 0.5
授業概要	アロマセラピー検定の内容に基づきながら、アロマセラピーの基本的な知識を学習し、精油を使用したクラフトを作成することで、精油の効能の理解を深める。	到達目標	アロマセラピーの基本的な知識を習得するとともに、精油の効能も正しく理解する。		
担当教員	鳥海 智子				
実務経験と授業との関わり	アロマセラピースクールの運営に携わるかたわら、職業訓練等の様々な場所での講師経験がある。よって、理論だけでなく実際の生活に取り入れるという視点から指導することができる。				
テキスト・教材	アロマセラピー検定公式テキスト（世界文化社）、精油等				
成績評価方法	検定対策の試験と授業態度で評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	アロマセラピー概論	アロマセラピーについて アロマセラピーのメカニズム	
2	精油概論	精油の基礎知識 安全な精油の使い方	
3	アロマセラピーと生活	アロマセラピー利用法 アロマセラピーと健康	
4	アロマセラピーの歴史とこれから	アロマセラピーの歴史、アロマセラピーと地球環境 アロマセラピーに関する法律	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考 毎回精油を用いたクラフト制作を行う。